

次世代に つなげる森林づくり



NO. 43号

令和4年11月2日

レベルアップを目指して

～実践研修を実施(令和4年10月8日～11日)～

10月8～10日まで、民間事業者や自治体などから総勢15名の未来をめざす技術者たちにご参加いただき、急峻な地形に応じた効率的な架線系と路網を描ける能力の習得することを目的に「森林総合監理士等の技術力維持・向上対策研修(地形に応じた効率的な架線と作業路網を組み合わせた集材作業システムと木材流通について)」が開催されました。

1日目は、まず最初に、「大型製材工場の現状と課題」について、(株)サイプレス・スナダヤ社長から、ウッドショック以降の世界情勢の中での木材需要動向を川下の立場からのお話をいただきました。

その後原田資源活用課長から、従来の架線システム「エンドレスタイラー」と最新の架線システム「油圧式集材機・ロージンググラップル」による集材の動画を交えながら架線集材システムについて説明の後、「搬出系統図」の作成に取り組みました。



2日目は、搬出間伐を実施している朴ノ川山国有林(四万十署)で、搬出木を少しでも有利に販売できる技術の向上をめざして採材についての研修を実施しました。

高知県森連高幡共販所南所長から「採材は小さな欠点(傷・腐れ等)を見逃すと、歩留まりが悪くなり、有利販売につながらなくなるので、欠点を見逃さないことが重要」等、採材の重要性について説明がありました。

次に事業実行者である(株)清水林業社長から、この事業地で車両系作業システムを選択した理由等の説明があり、その後、昨日作成した「搬出系統図」を現地状況に照らし合わせ、机上ではわからなかった地形等をドローンにより確認し、現地の条件に合った「搬出系統図」に修正しました。

帰局後は駐車場でミニ集材架線システムを使い、現地の索張り方式について説明を行ったあと、森行政専門員の指導の下、研修生に操作体験をしてもらいました。



3日目は国有林森林GISを活用して再度、架線や路網の設計を行い、2日目に作成した「搬出系統図」を完成させ、搬出コストの計算を行い、収入額との収支差を算出し、その成果を市町村等の林務担当者へプレゼンテーションするという想定で発表を行い、活発な意見交換が行われました。

受講生からは、「架線集材システムを実際に計画したことがなかったので、今後の生産計画を考える際の参考になった」「架線集材の技術力が高い高知県に見合ったテーマであったので勉強になった」等の好評な意見の一方で、「本格的な架線の現場の視察が出来れば、なお良かった」「もっと架線の事について集中した内容であってほしかった」「全体的に内容が専門的すぎて難しかった」との感想がありました。

今回の研修では、①実習で架線集材の現場を準備できなかったこと、②専門用語等が多い架線集材システムをより理解してもらうために研修自体の構成などの工夫ができていなかったこと等を改善点として、今後の実践研修に反映させていきながら、未来に向けてスペシャルな技術者を育てて参りたいと考えています。

森林技術・支援センターに2つのロゴが出来ました。これからいろいろな場面で登場します。よろしくね！！



*各種試験等についての問い合わせは

四国森林管理局 森林技術・支援センター
TEL088-821-2250
E-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp